



好学愛知  
自律敬愛  
質実剛健

# 鶴丸イ言

## アートの力

生徒指導課主任 立元 真一郎

「それでは、この作品を今回の美術展の大賞に決定いたします。」沸き起こる拍手。2時間近くも激論の末に決定したグランプリ作品の前で、緊張の連続だった審査員達はホッと胸を撫で下ろした。

これは過日、県内で開催されたある美術展の審査員として参加したときの出来事だ。その美術展は毎年春に開催されている本県でも最大規模の伝統ある展覧会として広く知られている。出品される作品は洋画・日本画・彫刻・工芸・デザイン・写真の6部門に渡り、出品総数も700点を超える。その内、公募(別に会員の部がある)の部において本展覧会の名を冠した最高賞が一点選出される。出品者にとっては憧れ、そして目指すべき栄誉ある賞だ。一次審査は各部門で行われ、出品数に応じた割合で各部門から賞候補を選定し、日を改めての総合審査で大賞を決定する。審査員も各部門から選出され、専門外の分野も等しく審査することとなるのだ。

ここで、皆さんからこんな声が聞こえてきそうである。分野の違う作品を一緒に並べて評価するなんて、果たして正当な判断ができるのだろうか。私も審査員の一人として、初めて参加した数年前は疑問にも思ったものである。加えて、審査の申し合わせ事項として、選出方法は投票では行わず、美術作品として賞に値すると思っただけを推薦し、意見交換を通して審議を進めるという形式である。各分野から送り出されてきた秀作をその分野の審査員が強く推してくるだろうから、これはとんでもない論争となり、決着に至らないのではないかと憂慮した。

しかしながら実際審査に入ると、そうではないということがすぐに分かってきた。勿論、私としては思い入れのある専門の洋画(油絵)作品を推そう、と言う気持ちが強く働いてくるのだが、分野を超えて目前に展示された優れた美術作品と対峙すると、思惑とは裏腹に、一人の芸術愛好者として直ぐさまフラットな気持ちで作品達に引き込まれていった。

各分野を代表するような秀作中の秀作だ。推薦した者はその責務として、皆にその根拠をアピールせねばならない。ここからがこの審査の醍醐味である。推薦者の発信する言葉の一手一投足が聞き逃せない。個々の作品が持つよさや美しさが専門家による豊富な経験と鑑賞力、そして言語化することで届く共感力。見逃していた作品の魅力が推薦者の言葉から天啓のように私の眼を捉える瞬間がやってくるのだ。

ここでの暗黙のルールは作品のよさや美しさを褒め尽くすことにあり、個々の作品のマイナスポイントを優劣の物差しにしないところであろう。「どの作品も秀作である」と、敬意を持って審査に当たり、開始当初は専門分野のアピール合戦といった様相を呈していたアグレッシブ過ぎる雰囲気から、徐々に作品のよさや美しさを純粋に讃える雰囲気へと変わっていった。そして審議開始から2時間近く経ち、審査員の表情がすつきりとした瞬間を見逃さず、進行担当者から次の一言が発せられた。「審議は尽くしました。それでは、こちらが今回の展覧会のトップに相応しい作品ということでよろしいですね。」沸き起こる拍手。顔を見合わせて納得の表情の面々。審査結果は意外にも今展覧会で初となる写真部門の作品が、見事に最高賞を獲得したのであった。

今回の審査を通してふとこう思った。我々が今回の審査と同じように、これまで脈々と続けてきた美術との関わり方は、今年度から実施される新学習指導要領が掲げる教育課程の理念を先駆けてきていたのではないだろうか。以下に新学習指導要領改訂前に開かれた中央教育審議会(平成28年12月21日)における答申の一部を掲載してみる。(中略)：答えのない課題に対して、多様な他者と協同しながら目的に応じた納得解を見いだしたり。(中略)：予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていける

ようにする。(中略)：様々な情報や出来事を受け止め、主体的に判断しながら、自分を社会の中でどのように位置づけ、社会をどう描くかを考え、他者と一緒に生き、課題を解決していくための力の育成。いかがである。美術及び諸芸術の世界観を正に言語化してみたいものではないか、とさえ思ってしまった。親和性を感じるのには身びいきし過ぎ

願わくは、芸術の力で世界の不条理や不均衡を無くすことができるよう微力ながら、これからも美術の授業等を通して生徒諸君へ様々なことを伝えていきたいものである。そして皆さんへのお願いが一つ。機会を捉えて身近に開催されている展覧会に是非足を運んでほしい。ひよっとしたらこれからの人生を変えてしまうような作品が待ち構えているかもしれない。

令和4年度前期生徒総会・生徒会長選挙  
5月18日(水)7時開目に前期生徒会長選挙及び生徒総会が行われました。今回はコロナ対策として、体育館と文化館をリモットで接続し、会場を分散して開催しました。選挙管理委員会と生徒会執行部は、機器トラブルにも迅速に対応し、工夫を凝らして準備していた内容を無事終えることができました。

生徒会長には、25Rの犬塚母菜さんが信任されました。また、生徒総会では、第3号議案として執行委員会の役員枠追加が議決され、可決されました。また、第4号議案として、生徒会活動についての提言が行われました。



↑ 説明会を行う犬塚母菜さん

## 一日遠足が行われました

4月22日(金)、マスク着用、バス乗車時や施設での手指消毒など、コロナ対策を十分に行いながら一日遠足が実施されました。今年度は快晴に恵まれ、各学年ともものびのびと遠足を楽しむことができました。

1年生は特攻平和会館と知覧町武家屋敷地区を見学した後、平和公園で生徒主体でのレクリエーションを行い、親睦を深めました。2年生は南薩少年自然の家から吹上浜海浜公園までを散策しました。サンセットブリッジでの写真撮影や海岸散策、レクリエーションを通して学級の絆を深めました。3年生は喜入総合体育館でレクリエーションを楽しんだ後、千貫平に登り、受験に向けて学年の結束を誓う決意表明を行いました。



## 3年生の集団読書より

5月23日(月)7時開目に3年生の集団読書が実施されました。今回の課題図書は、ソルジェニツィン作『イワン・デニソヴィチの一日』でした。2年生は5月30日(月)に吉村昭作『雪の花』、1年生は6月13日(月)に伊坂幸太郎作『砂漠』を課題図書としてそれぞれ実施される予定です。1年生のホームルーム委員は2・3年生の集団読書を見学し、それらを参考に、鶴丸高校に入学して初めての集団読書に挑みます。

今回の鶴信では、事前に提出された感想文の中から、38Rの中村美月さんの作文を紹介いたします。皆さんもこの機会に、ぜひ『イワン・デニソヴィチの一日』を手に取ってみてはいかがでしょうか。

「この野菜汁の一杯こそ、今の彼には、自由そのものよりも、これまでの生涯よりもいや、これからの人生よりも、はるかに貴重なものだ。」  
この一文から、現代を生きている私たちには想像すらできないような、ソ連社会の厳しく、悲惨な現実が明らかになる。しかし、飽くまで文章の語り口は落ち着いた語り、主人公イワン・デニソヴィッチも前向きな人物として描かれている。このことによつて読者はよりラゲルの悲惨さを客観的に捉えることができるのだ。

人間とは何か。ラゲルにおいてシューホフら囚人は人間としてすら扱われない。酷寒の中、寒さをしのぐことも許されず、ろくな食事も与えられず、監督官が気に入らなければたちまち倉倉入りとなる。「ひとりの人間の運命なんて、どうでも変えられるのだ」とシューホフはこぼす。スターリンという絶対的指導者の下、人々は苦痛に喘ぐも、その状況を変えることなど不可能なのだ。スターリンとシューホフ、同じ人間であるのに何が違ったのだろうか。何が指導者と囚人という差を生んだのだろうか。おそらくその差は気にもとめないような一つの選択、行動によるものなのだろう。スターリン自身、もとは靴屋の子だったというのだ。

人間とはなんとも残酷で、傲慢で、卑しい存在である。監督官として囚人たちに罰を与える者、囚人でありながら役職をもらい偉そうに振る舞う者、他人にせざることで生きていこうとする者、もはや生に対する執着さえ失い、ただ与えられたものに従って生きる者。皆が同じ人間であるというのに、自分が他の立場であったかもしれないのに、私たちはそのことを忘れ、他者を傷つけ、自らを守ろうとする。人間はなんとも残酷で、傲慢で、卑しい存在である。これはゆるがせない事実だ。そして紛れもなく、私自身も残酷で、傲慢で、卑しい人間の一人なのだ。

## 6月の行事予定

日	曜日	行事	校時	学年
1	水	【教育実習期間】		0
2	木	【教育実習期間】		0
3	金	【教育実習期間】 週審引継会		0
4	土			X
5	日			X
6	月	中間考査(1日目)	考査	X
7	火	中間考査(2日目)	考査	X
8	水	中間考査(3日目) 下校指導 (~6/10) 部活動生集会	考査	0
9	木	耳鼻科検診(1年 13:30~)		0
10	金	学校安全の日 進路講演会 (3年) 週審引継会	1~6 45分	0
11	土	進研マーク(3年) 競台模試(2年)		X
12	日	進研マーク(3年)		X
13	月	学年総会(1年) 集団読書(1年)	5分進	0
14	火			0
15	水			0
16	木	学習時間調査(~6/22)		0
17	金	週審引継会		0
18	土	修学講座① 小論文模試(3年)		X
19	日			X
20	月	学年総会(2-3年)	5分進	0
21	火	教育相談①	45分	0
22	水	教育相談②	45分	0
23	木	教育相談③ 1・2年実力考査時間割発表	45分	0
24	金	教育相談④ 週審引継会	45分	0
25	土			X
26	日			X
27	月	教育相談⑤ 全校総会 保健講話(薬物乱用防止教育)	5分進 45分	0
28	火	SC米校(児玉先生 13:30~17:30)		0
29	水	中掃除	午後 10分進	0
30	木	1・2年実力考査(1日目) 通学マナー指導(~7/5)	1・2年 考査	0

↑ 発行時の予定です。変更にご注意してください。